



大きな地震では 揺れによる被害 の他に 火災 による被害も甚大になります。  
被害を少しでも小さくするには、火災を出さないことが絶対に大切なのです！！  
停電が続いた後、再通電した際に出火する「**通電火災**」には特に注意が必要です。



最近の電気製品は倒れると自動的に消えるから安心だし、  
そもそも我が家はエアコンのみで、電気ストーブなどはないから心配ない?!

と思いをしていますか？



本震では倒れなかった家具や電化製品が余震によって倒れる事があります。  
また、壁の中や天井裏でも再通電時にショートして火災となる事があります。  
**電気が流れているところは全部通電火災の原因**になる可能性があるのです！



## 1. 通電火災が起こる原因



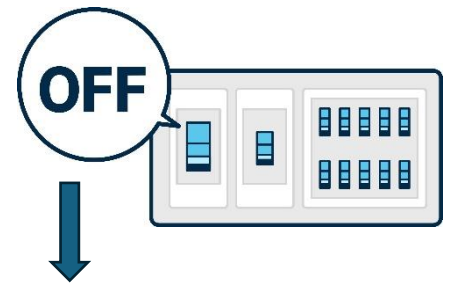
(北陸電力 HP より)

特に危険なのは…

避難中や不在時に停電が復旧すると、火災の発見が遅れ、被害が拡大すること

## 2. 通電火災を防ぐためにブレーカーを切りましょう

通電火災を防ぐために最も有効なのは、「避難する際にブレーカーを落とす」ことです。  
しかし、避難時に必ずブレーカーを落とせますか？  
不在時の心配もあります。



## 3. 感震ブレーカーを設置しましょう

「感震ブレーカー」は、地震の揺れを感知して自動で電気を遮断する便利な装置です。不在時に地震があっても安心です。

今年度 横浜市は感震ブレーカーの設置に対する補助金交付をします。

### 注意点

- ✓ 生命維持に直結する医療機器は停電に対処できるバッテリー等を備える必要があります。
- ✓ 復電時は、ガス漏れや電気製品の安全を確認してから 電気を入れてください
- ✓ 風水害による停電などでは作動しないので、手動でブレーカーを切ってください。



感震ブレーカー等の設置の有無に関わらず、  
災害時に自宅から避難する際はブレーカーを必ず切ってください！

**通電火災を予防して、自宅も街も 一緒に守りましょう**